

群 教 セ	G11 - 03
	令 4.281集
	特活 - 小

「自分たちで学級をよりよくした」 という実感をもつ児童の育成

— ICT活用による過程の可視化を通して —

特別研修員 松本 訓亘

I 研究テーマ設定の理由

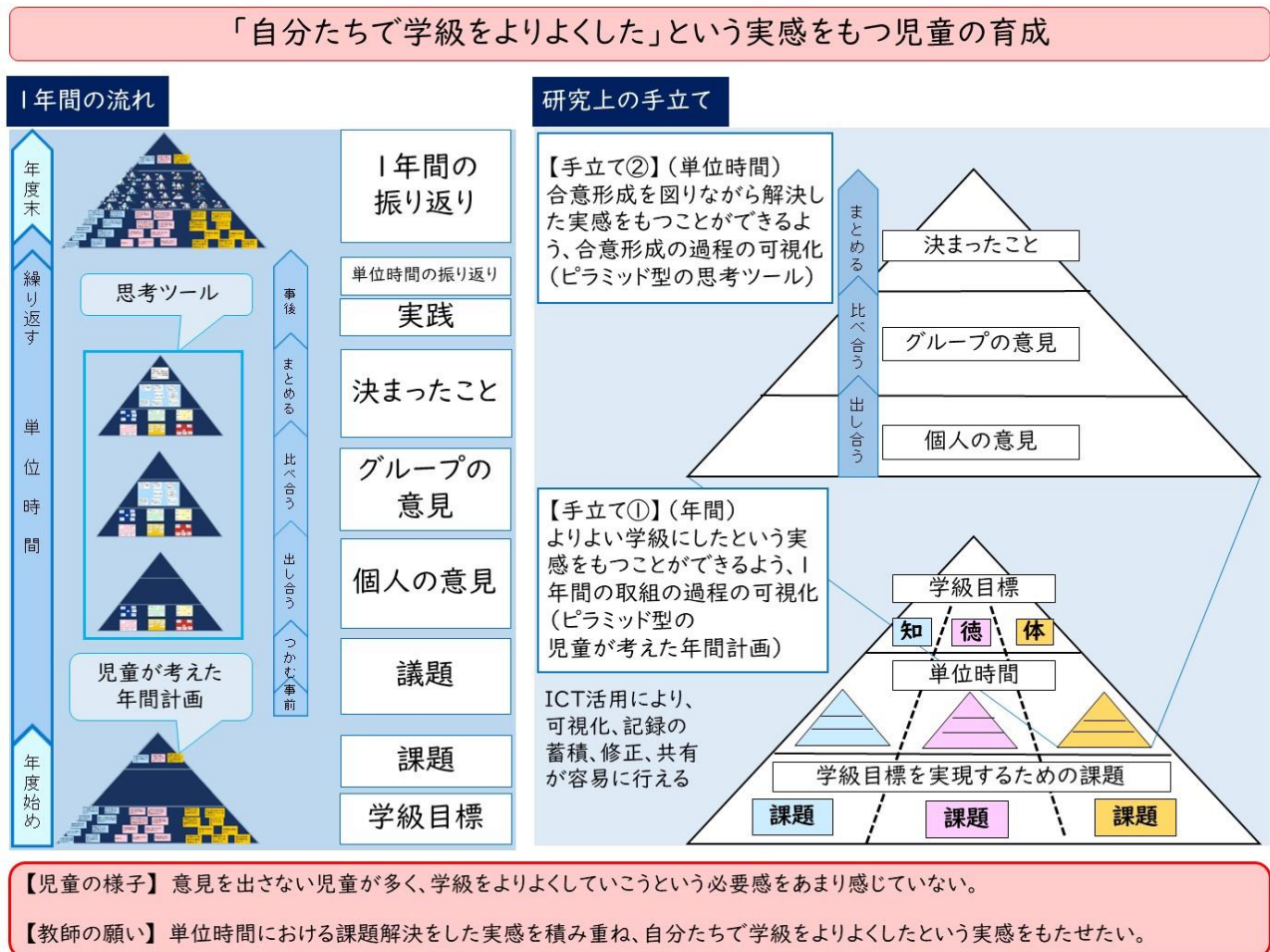
学習指導要領解説特別活動編では、「社会は、様々な集団で構成されていると捉えられることから、学級や学校の集団をよりよくしようとするために参画すること」とあり児童の自主的、実践的に学級に参画することの重要性が指摘されている。

本校の児童は、学級活動における話し合い活動を児童主体で行うことができる。しかし、発言をしない児童が多く、特定の児童の発言を中心に話し合いが進む様子が多く見られた。これは、学級をよりよくしていこうという必要感をあまり感じていないからではないかと考える。このような児童が、学級をよりよくしていきたいという意識を高め、自分たちで学級をよりよくしたという実感を積み重ねることができるよう、授業改善を進めていく必要がある。

そこで、児童が、学級における課題を見付け、話し合い、実践し、解決していくことを繰り返せるよう、その過程の可視化を重視することとし、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

自分たちでよりよい学級にする姿とは、年度始めに決めた学級目標を基に自分たちで学級の課題を見だし、その課題解決に向けて話し合い活動を行い、実践し、解決していく姿と考える。このような姿を促すために以下の活動を手立てとした。

手立て1 1年間の取組の過程の可視化

自分たちでよりよい学級にしたという実感をもつことができるよう、1年間の取組の過程を可視化する。ICTを活用することで、思考の可視化や記録の蓄積、修正、共有を容易に行うことができる。

年度初めにおいて、自分の考えを発信する必要感のある議題が分かるよう、学級目標をゴールとしたピラミッド型の児童が考えた年間計画を設定する。必要に応じて、学級における課題を児童が自由に修正できるよう、児童用コンピュータに常時共有しておく。

単位時間において、事前の活動では計画委員による話し合いの準備として、必要感のある議題を見付けることができるよう、ピラミッド型の児童が考えた年間計画を基に議題を設定する。事後の活動では、自分たちの話し合いの過程を振り返ることができるよう、ピラミッド型の思考ツールをピラミッド型の児童が考えた年間計画の中段に記録する。

年度末において、自分たちで学級をよりよくしたという実感をもつことができるよう、1年間の取組の過程を可視化し、振り返りを行う。

手立て2 合意形成の過程の可視化

自分たちで議題について、意見を出し合い、比べ、合意形成を図りながら解決方法をまとめることができた実感をもつことができるよう、合意形成の過程を可視化していく。出し合う・さぐる過程では、全員が意見をピラミッドの下段に記入する。比べ合う・見付ける過程では、個人の意見を反映させながら、よりよい意見に焦点を当てることができるよう、グループ毎に意見を分類・整理し、中段に記入する。まとめる・決める過程では、全員が納得した解決方法にまとめることができるよう、グループの意見を基に合意形成・自己決定を図りながら決まったことを上段に記入する。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 年度始めに学級で作成したピラミッド型の児童が考えた年間計画を基に話し合いの議題を設定したことで、議題に対する必要性を感じさせることができ、議題に対する自分の意見を伝え合う児童が多く見られた。
- 本時において、ピラミッド型の思考ツールを活用し、個人の意見が反映されながらよりよい解決策にまとめる過程を可視化したことで、自分たちで合意形成を図り、まとめることができた。そして、決まったことに対して意識的に実践している児童が多く見られた。
- 単位時間における、事前の議題設定から事後の振り返りまでを児童中心で行うことができるようになり、その過程を可視化したことで、課題解決ができ、学級目標の実現に一步近づいた実感をもつ児童が見られた。
- 年度末に向けて掲示されているピラミッド型の児童が考えた年間計画を通して今までの話し合い活動の記録に触れることができ、自分たちがよりよい学級をつくってきたという達成感を味わっている児童が見られた。
- 年間の取組の過程と、単位時間における合意形成の過程の可視化により、合意形成を図りながら課題解決をした実感を積み重ね、決まったことに対して積極的に取り組む姿や、自分たちで学級をよりよくしたという発言が多く見られるようになった。

2 課題

- 年度当初に児童が年間計画を作成する際に、年間行事計画等と関連付けると更によい。

実践例

1 議題名 「運動会に向けて具体的な練習方法を決めよう」学級活動(1) (第5学年・2学期)

2 本単元(題材)について

本題材は事前の活動として、運動会に向けてピラミッド型の児童が考えた年間計画を参考に計画委員が議題を見だし、その議題に対して解決を図る学習である。題材の導入では、学級の課題を提示し、議題について確認する。展開では、議題に対する解決策についてICTを活用して出し合い、全体で共有し、解決方法を定める話し合い活動を行う。終末では、折り合いをつけながら解決方法を定める。事後の活動として、解決した実感をもつことができるよう、決まった実践を行い自己評価する。

本題材では、ピラミッド型の児童が考えた年間計画から議題を見だし、ICTを活用した話し合い活動を行うことで、必要感のある議題設定ができ、自分の考えをもち、全体場で表現し、解決策を決めた喜びや事後活動の実践を通して課題解決ができた達成感、学級への所属感を味わうことができると考えた。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 知識及び技能 みんなで楽しく豊かな学級の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解し、合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けるようにする。 (2) 思考力、判断力、表現力等 楽しく豊かな学級の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し合って実践する。 (3) 学びに向かう力、人間性等 楽しく豊かな学級の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団行動に取り組む。
評価規準	(1) よりよい生活を築くための知識・技能 みんなで楽しく豊かな学級の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解し、合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。 (2) 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 楽しく豊かな学級の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し合って実践している。 (3) 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 楽しく豊かな学級の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団行動に取り組もうとしている。
過程	主な学習活動
事前の活動	1 課題を見付け、議題に対する話し合いの計画を立てる ・年度当初に学級全体で話し合って作成したピラミッド型の児童が考えた年間計画を参照し、計画委員が議題を作成する。
本時の活動	2 議題に対する解決方法について話し合う ・「運動会の具体的な練習方法を決めよう」という議題で話し合いを行う。 ・各過程で話し合ったことをピラミッド型の思考ツールを活用して可視化する。 ・ピラミッド型の児童が考えた年間計画と関連させた視点で比べ合い、解決方法をまとめていく。
事後の活動	3 決まった解決方法を実践する ・陸上練習やソーラン節の練習を行う。 4 活動を振り返る ・ICTを活用し、アンケートによる振り返りを行う。 ・本時の活動のピラミッド型の思考ツールをピラミッド型の児童が考えた年間計画の中段に記録する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時について、児童がよりよい学級にしていくために自分の考えを発信し、解決方法を考え、合意形成をしていくことが必要だと考える。また、決まったことを実践し、運動会後に振り返ることで、よりよい学級にしているという実感をもつことができると考え、次のような手立てを設定して活動を行った。

手立て1 1年間の取組の過程の可視化

事前の活動において、自分の考えをもつことができるよう、必要性のある議題の設定を行う(図1)。その際に、年度初めに作成したピラミッド型の児童が考えた年間計画を参考に計画委員が議題選びを行い、計画を立てていく。本時の活動においては比べ合う活動の際に、ピラミッド型の児童が考えた年間計画を参考に比べる視点を見だし、その視点に沿って比べていく。事後の活動では、課題解決ができた実感をもつことができるよう、合意形成を図りながら決めた解決方法を実践し、児童中心に振り返りを行う。また、単位時間で行った話し合い活動の思考ツールをピラミッド型の児童が考えた年間計画の中段に記録する(図2)。

手立て2 合意形成の過程の可視化

本時の活動において、計画委員が議題を決め、それについて話し合いを行い、解決策を決めた過程を可視化する。出し合う場面では、小グループ内で意見を出し合いながらピラミッド型の思考ツール下段にあるテキストに意見を書いていく。比べ合う場面では、小グループ内で出された意見を児童用コンピュータ上で仲間分けや視点に沿って比べ、中段に記入する。解決方法をまとめる場面では、個人の意見が反映されたグループの意見を基に、よりよいまとめ方を選び、全体の解決方法としてまとめていく。そして、決まった解決方法を上段に記入する(図3)。



図1 児童が考えた年間計画(年度始め)



図2 児童が考えた年間計画(年度末)



図3 思考ツール

4 授業の実際

(1) 年度初め

学校教育目標を基に「知・徳・体」の3観点の学級目標を作成したところ、具体的な目標にならなかった。そこで、学級目標をゴールに設定したピラミッド型の児童が考えた年間計画を作成したところ、それに向けて課題を記入していた(図1)。これは、目標までの道を可視化したことによって、学級の現状把握と今後の見通しをもつことができたと考える。

(2) 本時の活動

① 事前の活動

ピラミッド型の児童が考えた年間計画をもとに計画委員と話し合いの流れを確認したところ、自分たちで議題を決めていた。これは、年度始めに考えた学級目標を具現化するための課題が可視化されたことで、学級に適した解決すべき課題を選び、その課題を基に計画委員が議題を決めることが容易になったと考える(図2)。

② つかむ場面

ピラミッド型の児童が考えた年間計画を基にした議題を提示したところ、意見を出し合うために、児童用コンピュータの場所に移動をしようとする児童が見られた(図3)。これは、学級における必要感のある議題を設定できたことによって、話し合いへの意識が高まったと考える。

③ 出し合う場面

5、6人のグループに1台の児童用コンピュータを配布し、一人一人の意見を可視化したところ、ピラミッド型の思考ツール下段に全員が意見を入力することができた。(図4)。これは、個人の意見を可視化したことで、意見をもてない児童も友達の意見を参考に自分の意見をもつことができ、伝えやすくなったと考える。また、自然の流れで理由を問い掛ける児童も見られ、話し合い活動の活性化につながったと考える。

④ 比べ合う場面

ピラミッド型の思考ツールの中段にグループの意見を可視化し、ピラ



図1 ピラミッド型の児童が考えた年間計画



図2 計画委員による議題決め



図3 つかむ場面



図4 出し合う場面



図5 比べ合う場面



図6 まとめる場面

ミッド型のグラウンドデザインを基にした比べる視点を提示したところ、個人の意見を分類、整理していた。また、グループ内で「協力し合って何んでもできるか」という視点で、「走ることが苦手な人が多いから協力し合って練習した方がよくなる。」や「苦手な人は遊びながら走る練習をすれば毎日できると思うよ。」とまとめ、より具体的な解決方法をグループの意見にしていた(図5)。これは、個人の意見が可視化されていることによって、個人の意見のよさなどで比べ合い、合意形成を図りながらまとめることができ、よりよい解決方法に近づいたと考える。

⑤ まとめる場面

各グループの意見を可視化したところ、どの折り合いのつけ方が良いかを判断し、合意形成を図りながら、「鬼ごっことかの遊びの中で陸上練習を取り入れたら、何んでもでき、みんなで練習できる。」とグループ同士の意見のよさを合わせた発言があった(図6)。そして、解決方法を決めることができた。これは、個人の意見を反映させてきた過程を可視化したことによって、折り合いのつけ方を自分たちで選び、全員が納得した上で解決方法を決めることができたと考える(図7)。

⑥ 事後

話合いで決まったことを実践し、「苦手な運動会だったけど、みんなで協力したから最高の運動会になった。」や「結果は2位で悔しい気持ちもあったけど、心の中ではみんなと協力できたから1位。」という意見があった(図7)。また、ピラミッド型の児童が考えた年間計画を参考に次の議題について、計画委員会を中心に計画書を作成していた。これは、全員が納得した練習方法であったため、意欲的に練習に取り組み、課題解決ができたという実感をもつことができたと考える(図9)。また、ピラミッド型の児童が考えた年間計画に本単元のピラミッド型の思考ツールを記録し、蓄積し、共有したことによって、学級目標を具現化する上で、話合い活動が足りない観点を容易に見付けることができ、次への見通しをもつことができたと考える。

(3) 年度末

単位時間で話合い活動を行い、実践したことをピラミッド型の児童が考えた年間計画に蓄積し、可視化したところ、今までの自分たちの活動に対し「すごい。1年間でこんなにたくさん話し合ってきたんだな。」や「これで学級目標を達成することができて、最高の学級になった。」と驚きと喜びの声を挙げていた(図10)。これは、蓄積された話合い活動を可視化したことによって、学級目標の具現化に向けて話合い、解決していく過程が分かり、達成感を感じ取ることができ、実感につながったと考える。

5 考察

今回は、今までの学級会から各過程を円滑に進めることができた。ピラミッド型の児童が考えた年間計画を基にした議題であるため、必要感のある議題となり全員が意見を伝え合うことができた。また、ピラミッド型の思考ツールを活用したことで、合意形成を図りながら解決策を決めた過程が可視化され、全員が納得できる解決方法を決めた実感をもつことができたと考える。また、計画委員の議題設定から、実践、振り返りを児童中心で行うことができたため、児童が自分たちで学級の課題を解決し、よりよい学級にしたという実感をもつことができたと考える。以上のことから本研究の手立てはよりよい学級づくりをしたという実感をもたせる児童の育成に有効であったと考える。



図7 各場面の意見



図8 実践の様子

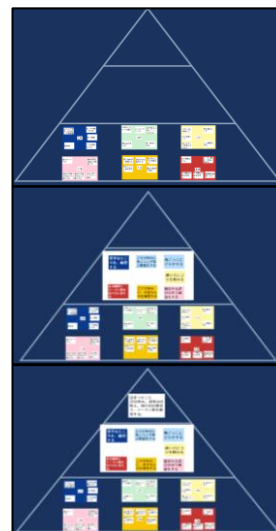


図9 思考ツール



図10 1年間の振り返り

